

仙林寺だより

NO. 48
編集・発行
松田正貴

行事報告

エイミー先生訪問

町内各小中学校で、英語助手として活躍されているエイミー先生と、そのご両親がお寺を訪問されました。

町の教育委員会からの依頼で、また保原ライオンズクラブとの交流事業を兼ねた催しです。

来るはずの通訳は遅刻、両親は勿論、エイミー先生も日本語がほとんどできないとあつては、相変わらずの単語の羅列で我慢していただくしかありません。最後は身振り手振り、何とか乗り切り、お役御免、ライオンズクラブの方々にバトンタッチとなりました。例会后、会長自らが打つ手打ちそばで楽しい夕食会となりましたようです。

坐禅会茶話会

定例の坐禅会と違って、不定期の茶話会です。蓮の葉に花の香りを移し取った「蓮茶」を頂き優雅な？気分。新潟の銘菓「明けの穂」も布施のお裾分けとして有難く頂きました。

無言の行に親しむ皆さんもこの時ばかりは雄弁になります。娑婆での立場を一切交えず、坐禅のみの関係で繋がるお仲間です。

和合衆の意味が見直される瞬間を味わうことができました。楽しく貴重な時間を過ごしました。

モラロジー東北子供坐禅体験

恒例の子供坐禅会です。今年で四回目を迎えますが、上は中学二年生から小学校低学年まで四十名を超える参加がありました。今回に限った事ではありませんが、今のお子さん一般に身体が硬いようで、あぐらもかけない子が目立ちます。椅子の生活が多くなったからなのでしょう。日本人は、坐禅に限らず坐る目線を基本にしてきた民族です。文化の継承として大切に守りたいものです。

大法螺会大紙芝居

保原町商工会主催、夏の大イベント「保原サマーフェスティバル」にて大紙芝居を演じました。お題は「山伏石ものがたり」、真言宗の皆さんが山伏の装束をつけて熱演、気温36度を超える炎天下、裏方の私も熱？演でしょうか。一人何役も声優をこなす方もいて芸達者ぶりを発揮しておりました。木魚や銅鑼の効果音も雰囲気盛り上げます。三回の公演で述べ百名ほども入ったでしょうか。暑さの中、初回という事もあり、結果は上々と言えそうです。



モラロジー坐禅



エイミー先生一家



大法螺一座

「坐る文化」

立つ神と坐る仏等という言い方をします。西洋と東洋、狩猟民族と採集民族の違いもありましょう。キリストと釈尊、それぞれの代表的なお姿は、十字架像、涅槃像でしょう。死期を迎えて立ち上がるキリスト、一方お釈迦様は地面に近いところに目線を落とします。山折哲雄氏は、「立ち姿の西洋人は常に外に向かつて行動を起こそうとし、坐り姿の東洋人は静かに内側に向かつて精神世界を開こうとする。つまり、坐る事は只体のポーズではなく、無限の内面を開拓しようとして、思索行為を伴う姿勢である」とその違いを説明します。また、中国の日本語文化学院院長の王勇教授は、「坐るといふ数千年前から東アジア世界に蓄積してきた尊い伝統文化を継承するために我々は時々坐る視点に立ち戻って、真正面から虚心に文化遺産と対話を行い、その真髓を新たな文化創造の糧にしなければならぬ。静かに腰をおろし、瞑想の世界に入り、ひたすら力を蓄え、知恵を絞り、内面世界を切り開いて文化を創出しなければならぬ」と力説します。

ところでこの坐の字、人と人が土の上に尻をつけて対座する様を表す象形・会意文字だそうです。禅ではこの人の一方を自我、向き合う一人を自己と言います。自我は滅するもの、自己は本来の姿を見つめるもの。禅は禅那、静慮、つまり坐禅とは、対峙する感性と悟性を静かに見つめるといふ意味になります。坐る文化の継承者でいたい私です。学校での勉強も畳で受ければもっと集中できたのかもしれない。